

(和訳)

2014年6月5日

IOC 会長 トーマス・バッハ閣下
マーク・アダムズ・報道部長気付

バッハ会長様

国際影響評価学会(IAIA)の 2008 年-2011 年度会長にあった専門家、及び日本国際機構(JICA)の環境・社会問題審査官として、私は日本スポーツ振興センター(JSC)による、オリンピック・ムーブメント・アジェンダ 21 の第 3.2.1 項、「オリンピック・ムーブメント環境活動の方法論」の違反につき、深い憂慮を表明する者であります。現在この手紙を認めている際にも、JSC は完全に修理、改良可能な現競技場を取壊すべく急いでおります。JSC は東京都の指針のもとに現在実施中の環境影響調査の終了をまたずに、近代オリンピック史上の貴重な競技場を破壊することになります。

東京都庁側は、この調査手続きは IOC の 2020 年東京オリンピック・パラリンピックのガイドラインに沿ったものと言明しておりますが、私は、それを否定し、世銀や JICA の専門家を含む IAIA 会員間では共通認識であるところの国際基準に準拠していないと断言します。真の意味の環境影響評価手続きでは、企画されている開発事業は環境調査終了以前に着手してはならないとの規則があります。また、関連する代替案の検討も所定手続きの要件として含まれており、1964 年東京オリンピックの遺産である現競技場の改修もこれに該当します。現行の手続きにはこの 2 点が欠落しております。

日本の環境影響評価に関する国や地方自治体の法令では、影響調査終了前の新規事業着手を禁止しております。従って、JSC の自由裁量に任せている東京都は日本の既存法律を無視しております。

JSC は、彼らの計画の反対者との対話を頑として拒否しております。また、国立競技場の利害関係者であり、オリンピックのサポーターでもある市民や著名建築家の広範な連合体が提起している代替案の検討も拒否しております。

私は、7月1日開始予定の、切迫している現競技場取壊しに関し真剣な懸念を抱くものとして、貴職に対し、本件はオリンピックの輝かしい歴史に汚点を残しかねない事態であるとご警告申し上げます。つきましては、貴職が直ちに日本オリンピック委員会と東京都に対

し、JSC による現国立競技場の取壊しを中止させ、国際基準にのっとった環境影響評価を実施するよう、命令されるよう、お願い申し上げます。

また、最近高まっている、取壊し反対の世論に考慮するよう、彼らにご助言をお願いいたします。例えば、2014年5月25日付け朝日新聞や2014年6月1日付けの日本経済新聞の社説などでは、情報の透明性と2020年東京オリンピック・パラリンピックに日本が準備すべき施設についての建設的議論を呼びかけております。

現国立競技場は壊してしまうにはあまりにも「もったいない」施設です。この「もったいない」は、ものを無駄にしないという、深遠な倫理観をあらわす伝統的な日本語で、持続性の発想をあらわしています。ケニアの環境運動家で、環境副大臣、またノーベル賞受賞者のワンガリ・マアタイさんによって日本国外でも知られるようになりました。私は国立競技場の取壊しを中止し、1964年東京オリンピックのレガシーとして保存することこそ、オリンピック・ムーブメントのアジェンダ21の精神を日本社会全体、更には世界中に広め、浸透させる道であると信じております。

貴職のご好意とご理解に心よりお礼を申し上げます。

敬具

原科幸彦 工学博士
千葉商科大学政策情報学部 学部長、教授
東京工業大学名誉教授
JICA 審査官